

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業導入について、建設的な意見があったので、よりよくブラッシュアップしていきたいと思います。

講義科目では、話し合いの場や簡単な実技などを通して実体験を伴って学べるようにしている。また実技科目では、一人ひとりにアドバイスを授業中1回はするようにし、個々のレベルに合わせた指導を心がけている。これらがあったことで学びが深まった、という意見がそれぞれ見られたので今後も継続していきたい。

演習の授業は、授業の目標を理解・達成できるよう、段階的に作業課題の意味がきちんと伝わることに特に注意を払った。また担当の準備段階で、個別に話し、指導する機会をなるべく持つように心がけている。講義単位の授業でも同様であるが、理解の深化を促す問いの用意に力を割き、受講者同士で意見交換をしながら体感的に把握できる場を作ることを行っている。それにより、能動的な授業参加のきっかけが得られ、自分の言葉で授業がわかることに結びついている様子が見える。なお、アンケート提出率が極めて低く、状況を把握することができなかった。そこで改善点に関しては、アンケートの結果とは別のこととなるが、授業の反応（提出レポートの内容、試験の解答状況も含む）から、授業内での扱いに工夫が必要な点がいくつか明らかになっており、そうしたことへの対応が必要であると考えている。

今回は、授業中にチャットを用いて受講者の意見を募った。おおむねうまくいったが、匿名であることより発言しやすいとの意見があったため次回から考慮したいと思う。また、講義の後半になっていくとチャットに参加する受講者とそうでない受講者に分かれるようになってしまった。チャットに参加しないと緊張感も薄れるため、直接的なやりとりも混ぜながら進行する必要がある。

レポート指示に対しては丁寧に行なっているつもりであったが、中には「あまり説明がなされていない」と捉えている学生もいた。また、シラバス以上の学びを与えられていなかったり、学生自身が自宅等で学びを深める機会を設けていなかったりする現状がわかった。そこで、後期には「更なる学びを促す工夫」を検討してみたい。一方で、工夫している点は「学生とのコミュニケーションを通して”主体的な学び”を促し、全員が参加できるように講義を構成している点である。ただし、これについても全ての学生が充実していたとはいえないようである。改善策を検討したい。

当たり前のことではあるが、高等学校（理系）や前学期までに学んでいる事柄を前提として講義を進めている。それら基本的な知識・技能が身につけていない学生には難しく感じるかもしれない。しかし、大学での各学期の講義は高校や前学期までの補習ではないので、不足する事柄を補完する際の参考になるよう、授業内容に関わる補足資料を、まなびネットを通して随時公開している。予想通りではあるが、それが必要とされる学生に限って全くアクセスしていない。一方で、日頃から自学自修する習慣のある学生は理解が深い。そうでない学生は、分からないことを講義担当者の責任にするのではなく、自身の知識・技能不足である事を自覚し、自学自修することの必要性・重要性に気付くよう努力してもらいたい。なお、試験では、合否を判定するための基礎問題に加え、最終評価の違いが出るよう標準的なものから少々難しい問題をバランス良く出題するよう心掛けている。期末試験についてのコメントをしておこう。すべての受講生が簡単に解答できるものばかりを出題しているわけではない。意欲ある受講生にはより意欲的になってほしいため、彼らに対する問題も含んでいる

紙ではなくネット上で回答させるようになってから、回答率が格段に下がった。まだ初々しい一年生は、まだ多く答えていた。結果については、例年どおりまずまずで、動画を交えた形態がうまく機能していたと思う。ただ、演習で行なった内容で、講義の方がいいと自分で感じたものもあったので（回答率の低さから自分で判断）、そういうものは来年度から講義で行なうように改善する予定である。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

例年どおりの回答になるが、私の授業方法に特に独自な点はないと思う。もちろん、授業内容に相応しい方法を採用するように努めてはいるが。今回のアンケートの結果を受けて、共通教育科目では、もっとアクティブ・ラーニングを実施すべきだったと感じた。

教師として学校現場で指導することを想定した実践の内容を扱っている。具体的には、学年ごとの各題材の目標や指導内容、指導法を実際に作品等を作っていく中で理解を深めていく内容。今後は、学生同士のディスカッションの場を設けて、学生相互で意見交流をしたり指導計画等を立案したりしていく。また、教科指導に活用できる資料等、例えば、指導書や指導案等を準備していく。

受講生に毎回の授業後に提出してもらうコメントを踏まえながら次の授業内容を構成した。熱のこもったコメントを提出してくれる受講生に恵まれた授業だった。主体的に学ぶ姿勢を持った受講生にとってディスカッションを多く取り入れた授業構成があったのだと思う。

理系の学生には、高校化学との関連性を示して、それとは異なる新しい視点を解説した。また、レポートの考察のポイントを示した。文系の学生には難しい内容であるので、親しみやすいトピックスを紹介したり、テーマに対して自分の意見を求めるような出席レポートを書かせて、講義への積極的な参加を促した。イメージやエッセンスを伝えられるよう努めたい。

授業アンケートについては、授業内、試験時に連絡したが、回答してくれた学生が少なかったことが反省点である。授業では、実際の学校現場のイメージやリアリティをもってもらえるように、具体的な事例を多く取り上げ、グループワークやディスカッションを多く取り入れるようにしたが、もっと話し合いの時間が多い方がいいとの意見もあり、講義（知識面）との両立について今後さらに工夫したい。今後は、学生が自主的に学べるように、参考文献の紹介や、関連分野の紹介、ICT活用など、これまで以上に工夫して行っていこうと考えている。

専門教育科目の授業に関しては、昨年の評価や意見を踏まえて、かなり改善を試みたが、まだ音楽科以外の学生には、テキストを読めば、かなりの学生が理解できると思ったが、難しかった様で、小テストで理解できない点をかなりの時間を使って解説したが、解説がなかったかの様な意見があるのには驚いた。内容はもう少し学生のレベルにあったものに改善したいと思う。

昨年度は授業内で学生に発表をしてもらう機会が多かったようなので、今年度は減らしました。発表概要の周知日と発表日との日程をもう少し離そうと思います。

欠席者も自分で学習を進められるよう、Teamsを使って授業プリントや学習資料を共有した。難易度の高い問題を扱う際には、グループでの学習やディスカッションの時間をできるだけ設けるよう改善したい。

演習を取り入れたり、お互いに話し合ったりする等、各学生がアウトプットできる時間を多く設定している。これからも、魅力ある授業づくりを心がける。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業方法については、独自に工夫しているところはありません。アンケートでは、「予習・復習などの自主学習や、小テスト・レポート等の課題について、授業やシラバスで指示があった」について、あまり自主学習を求めなかったので、授業の中で指示するようにしていきたい。また、「授業のなかで提示された専門的知識を、体系的に、また他の分野や事象とも関連づけ」させるためにはどのようにしたらよいか考えていきたい。「教員から意見が求められたり、グループ・ディスカッションを行ったりするなど、質疑応答の機会があった。」については、以前から課題と感じているが、なかなか改善を図ることができていない。公開授業を見に行くなどして学んでいきたい。

とくに「学習内容の意義・必要性」「評価」に改善すべき課題がある。また受講者の思考を促す題材と呈示の工夫が求められる。

- ・授業で示すパワーポイントの資料は、できるだけ厳選し、わかりやすく工夫している。
- ・小学校で家庭科の技能を教えることができるように、製作活動を取り入れた。
- ・全員が模擬授業を行い、それぞれの良さを認め合えるようにした。
- ・今後、指導案を創るポイントをさらに分かりやすく伝えていきたい。

授業内で関連する動画を流したりして、単調な授業にならないように心がけた。授業内の小テストを授業最後に行っていたが、30分以上遅れて入室する人と同じであることが不公平であるという意見があったため、今後は、授業最初に行いたいと思う。なお、アクティブラーニングについては、授業人数が50人や100人と多いうえ、スクール形式の講義室がほとんどであったため、実行することが難しかった。この点については、質問を投げかけて挙手で多数決を決めたり、一部の生徒には発言をさせる等、何かしら改善していきたいと思う。

1年生対象の多人数講義ではパワーポイントと配布資料を併用した詳細な資料を用意している。同じく多人数講義であっても、3年生対象では配布資料のみとしている。ただしタブレットをディスプレイに接続してスクリーンに映写し、配布資料PDFをタブレットで参照しつつ書き込むことで、板書の代替としている。しかしその教育効果については検証できておらず、板書のほうが良いかもしれない。

シラバス・評価の明示化、内容の体系化などに関しては問題ないと思われるが、ディスカッションの時間の過小について受講生から指摘をいただいた。次年度以降は、内容を整理し、ディスカッションの時間を設けるように気をつけたい。

共通教育科目については、体験的な活動と意見交流の往還した方法とした。活動の目的と内容の説明が不十分であったと考える。改善していきたい。

- ・機器の利用に関しては、他の先生方より少なかった。今後、動画等を視聴させていきたい。
- ・今年度はグループディスカッションを取り入れた。グループを固定していなかったため、毎回違うメンバーとのやり取りだった。それがよかったかどうかは分からない。これからも、随時取り入れていきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学生たちが興味を持って主体的に学べるよう、予習のためのコンテンツを事前配信し、授業の中では理解を深められるよう努めた。

授業方法について、独自に工夫しているのは、分かりやすい資料づくりに努めている、毎回小レポートを書いてもらってそれを読み学生の状態を把握した上で毎回の授業のやり方を微妙に調整している、毎回小レポートに対する回答の時間を設け学生の授業理解を深める場としている、学生の認識形成を阻害しない範囲で（また、学生の生活と授業内容が結びつくように、眠気に支配されないようになどなど）ディスカッションの機会を設け対話的な学習を心がけている、小休憩を入れる（教室環境があまりよろしくないため、集中力を保てるように）、授業によっては本格的なグループによる活動を行っている、などである。学生のアンケート結果を見る限り、それは適切であったととらえている。今後もよりブラッシュアップしていきたい。

まなびネットなどを活用し、自主学习、反転授業、遠隔指導、遠隔課題提出などが可能な仕組みにしてある。難易度が高めの授業に関しては、ゲーム感覚の協働学習、（授業で学ぶ原理を利用した）手品っぽい応用、伏線（および伏線回収）などいろいろな仕掛けを取り入れている。ただし、それらの意図が完全に理解できている学生からは悪くない評価が得られているが、意図を理解していないと何をやっているのか何故やっているのか分からずかえって難しい授業と感じてしまうケースもあるようなので、もう少し工夫が必要なのかもしれない。

なるべく授業内で学生自身で調べて発表し、お互いに意見を言う機会を設けるようにしている。ゼミでのアンケート回答率が低いので、なるべくアンケートに協力してもらえよう授業内で依頼することにしたい。

学校現場での経験を生かし、教員になったとき大切なこと、役立つことをできるだけ教えている。小学校での授業を想定し、実技を多く取り入れている。

体験やワークを積極的に取り入れている。しかし、一部の授業ではより多くのグループディスカッションを望んでいるようなので、次回以降に反映したい。

専門教育科目について、授業は座学とフィールドワークによって構成されており、座学で学んだことを、実際に自分の目で見て体験できるところが、高評価だったポイントであろう。

まだ不足していると思われるので、受講学生のレベルにより合わせた授業を心掛ける。

工夫した点は、丁寧な説明を心がけた点と演習の時間をできるだけ取った点である。今年度は同じ科目でもクラスによって理解度や反応がかなり違ったため、授業展開に苦労し、うまく説明ができなかった部分があったかもしれない。学生の理解度を把握し、クラスごとに適した言葉で解説できるよう心がけたい。

授業内容に関する課題を解答付きで公開し、提出を義務とした。復習と学習の習慣を促せたと思う。アンケートの結果については、おおよそ期待した通りのものであった。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

知識として知っておいて欲しい単元をオンデマンドでの視聴とし、深めたい単元を対面授業で扱った。対面授業ではグループでの事例検討を取り入れ、考えることに焦点を当てた。精神保健論の必要性については、スクールソーシャルワーカーに必須の科目であるということが受講のモチベーションになっている。精神保健が他人ごとではなく自分事であるとオンデマンドでも対面授業でも伝えたつもりであったが、伝わっていないことが分かった。対面授業での持ち帰り資料を準備し、強調しようとする。

工夫している点は、反転授業で対話型の授業を行っていることです。特に、対話しやすい雰囲気作りをしています。アンケート結果を受けて、対話型で行うことの意味を感じていますので、今後も続けて行きたいと思います。また、提出課題の質問については、より質の高いものを提示できるよう、今後も検討を続けて行きたいと考えます。

アンケートに回答してくださった学生さんの人数がかなり少なかったため、正確なところが掴みにくいが、前期中を総括して、反省すべき点を述べていきたい。毎回の評価書を書いて思うことだが、授業アンケートに真摯に答えてくれる学生さんのためにも、しっかり反省し、これを今後に生かしていかなければならないと考える。それぞれ授業によって多少対応が異なるが、全体としては以下のような内容ではあるが、反省の気持ちを記しておきたい。

【現在の工夫点】

・学生に興味や関心をもってもらうため、できるだけ分かり易く、基礎基本を重視している。理論と演習のバランスを常に考えている。また、苦手意識を克服できるよう、個人個人のレベルや達成状況の把握に努め、そして、それに合った対応を心がけているつもりである。アンケート結果は調査参加人数が少ないため、参考にしにくいところもあるが、以下の点を改善点として更に努力していく所存である。

【今後の改善点】

・グループディスカッションも多く取り入れていきたい。
・難しいが、他の分野や事象との関連づけを、さまざま考えたい。
・課題探求力を高めるべく、自ら主体的に調べる方法を模索したい。
・ICTの効果的利用を更に考えていきたい。
・カリキュラム上、学生の思うように選択履修ができていないところがある。学生の負担にならないよう、演習発表等に配慮する必要があると思う。
・授業内での無駄のない時間配分と方法を考えたい。
・模擬授業に関して、様々なアイデアや工夫を盛り込めるよう、可能な限り支援していきたい。そのために教材研究に一層力を注ぎたい。

一部の授業において、実物投影機を使った授業動画を公開し、授業欠席者へのフォローを心掛けている。改善点としては、これも授業によるが、授業内で学生の意見を聞いたり、学生同士でディスカッションする機会を持てるように改善していきたい。

独自で考えた「パズルカード」というメソッドやプリント・資料などを使いました。教科書はないので、復習やテストの準備、また将来先生になったときに参考になるため、ノートを配って履修者が「自分の教科書」を作りました。ノートは成績に影響があります。履修者は、ブラジル文化に触れながらグループでポルトガル語の発表をしました。楽しくて分かりやすい授業になるように心がけていました。アンケート結果を受けての改善点は、回答者人数です。あまりにも少なかったため、履修者の気持ちや考えを完全には理解しきれません。ただし、授業での参加態度や成果で考えると、履修者のポルトガル語能力について向上が図れたのではないかと思います。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

まなびネットを活用し、授業内で使用する教材はすべてオンラインにてアクセスできるようにしています。レスポンス課題などの提出もまなびネットを通して行い、ルーブリック評価を学生に戻すことを徹底しています。授業アンケートにおいても、課題は大変でも評価が常に可視化されていることが励みになった点が挙げられていました。その他の点においても概ね高評価でしたが、課題量が多いという意見が散見されたので、授業内容の難易度とともに今後調整していこうと思います。

毎回、個々で英語を発話する時間を必ず設けています。概ね満足しているアンケート結果に安堵しています。改善点として、さらに自然に英語を使用できるよう会話時間を増やしていきたいです。

授業については、知識や技能を身につける内容が多いため、一方的な授業になりやすい。そのため、配布プリントでは、授業の振り返りの問題を毎回載せて、授業理解を深める工夫をした。今後は、グループ・ディスカッションなどの機会をできるだけ取り入れたいと思う。

できる限り、学生主体、体験可能なスタイルで講義を実施している。アンケート結果、回答数が少なすぎて、改善しようにもコメントがない。

指導法に関する先行研究のエビデンスをもとに講義を行ったが、アンケート結果からは、「既知っている内容であった」とあった。既に他の教員が授業で紹介しており知っているということであれば、時間の無駄にもなりえるので、他教員に確認して修正したい。一方で、そうではなく学生個人の特にエビデンスのない経験則から知っているということであれば、特に修正せず次年度の授業に臨む予定である。

グループで作品制作をするなど、グループワークの課題を多く出している。『同じグループでの活動が大半を占め、そのグループの中で熱心な人とそうでない人の差があるにもかかわらず、制作態度・意欲の面が同じになってしまうのは不平等であると感じた。』との意見があったが、評価は各自が提出する学びのレポートからのみ行なっているため、不平等にはならない。ガイダンスでその様に説明したのだが、理解が不十分な学生がいるようなので、もう少し丁寧に説明していこうと思う。

学習指導要領の記載事項を必ず具体的な授業実例と関連付けて説明するようにしている。また、一方的に教えるのではなく、グループで考える場面や分からないことを記述する場面も設けている。質問事項については必ず次回の授業の冒頭で説明した。授業終盤に記述する振り返り用紙にはコメントを一人一人記入し、個々に返却している。今後の改善点は、資料内容の精選と授業展開の速度に配慮しながら進めることである。そのためにも、学生の声に耳をいっそう傾けたい。

学生が学ぶ意義や学びの価値が実感できること、よりよい社会人に向けての資質・能力・態度を育成すること、特にこの2点を重視しながら努めてきた。アンケート結果からある程度の成果を得ているが、説明の仕方や伝えた方についてさらに工夫をしていきたい。理科の魅力を感じられる教材を機会ある毎に紹介し、少しでも理科が好きになり、理科の授業をしたいと学生が思うような講義をしていきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

講義では毎回授業の最後に受講生にシートを配布し、そこに質問・疑問など自由に記入してもらうようにし、なかなか対面では聞きづらい質問などには、必要に応じて翌週の講義で回答するようにしています。受講生の言葉をなるべく多く受信し、インタラクティブな講義を目指しています。

学生の勉強のためにはと思い、ワークシートや過去に録画した講義動画をまなびネットに掲載してきた。しかしそれらがどの程度学生のためになっているかわからない。むしろ、それらが存在するために講義中に学生が講義に集中しない、出席しない（安易に休む）などの問題が出てきているように感じる。今後はそうしたサービスをやめて、講義に集中しないと理解できない形に戻るのが良いかもしれないと考えている。

リアクションペーパーを毎回配布し、任意で質問や相談などを書いてもらい、次週回答している。授業に関係のないコメントも含めすべてのコメントに回答することで、授業に関係するコメントも増える。なぜかはわからない。

アンケートの回答率が低いことから、はっきりしたことは言えないが、否定的な回答がごくわずかで、大多数は肯定的な回答であったことから、まずまずの授業であったと思われる。今年からTOEIC対策の内容を含めたのが良かったのかもしれない。今後はその内容をさらに有用なものになるよう改善していきたい。

毎回、アンケートを受けて改善をつづけてきました。参加度を高める工夫、ICTなど新しい技術の体験などさらに改善を続けていきます。

共通教育科目（英語）では、テキストとなる教材以外に「活動」としての英語楽曲のリスニングと歌唱の時間を設けてきた。今回初めて、その「活動」に対してもコメントが複数寄せられ、教員としてはやり続けてきてよかったと思えた。一方、少人数ゼミでの「活動」については、授業者の意図は必ずしも回答を見る限り参加者に伝わっていないことが分かった。参加者が期待する「活動」を知る機会を授業開始から早めにつくり、シラバスに縛られず、柔軟に授業内容の組み直しをする必要があるかと思う。

学校現場での実際の授業をどのように作っていくかを具体的に考える講義内容にしている。好評なので継続していきたい。

学校現場ですぐに役立つように、学習指導要領の改訂のポイントと教科書を読み解き、模擬授業を行っている。模擬授業を実施し、授業分析をすることは高評価である。アンケート結果から、少数であるがもう少し詳しい説明が欲しいという意見があった。さらに個々の学生に応じたきめ細かい支援を心がけていきたい。

小学校算数科の授業の構想を実践事例を通して考えることができるようにしている。アンケート結果を受けて、学生の考えをさらに引き出す工夫をしていく。

理論的な学習によって得た知識を、教育の現場でどう使うのか考えられるようグループワークを行っていたが、グループワークのテーマが抽象的で考えづらいというコメントもあったため、今後その点については改善していきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

他専攻対象の授業については、難しくなりすぎないようにかつ、興味を引き出すテーマを心がけている。図工美術の学生については、自分たちの規制概念を覆して、さらなる関心を深めるよう努めている。回答母数が少なかったので判断が難しいが、結果だけを見る限り概ね目標を達成したように思う。

○工夫している点

- ・ 思考しやすく、記入しやすいワークシートの工夫
- ・ 他学生との意見交流の場の設定（グループワークの実施、座席の指定）
- ・ 思考の手助けとなる解答例の提示
- ・ 振り返りカードによる自己評価とそれに対するフィードバック

○改善点

- ・ 学生の理解度に合わせた、分かりやすい説明を心がける
- ・ 多くの質問・疑問等を引き出すために、授業時間中に時間をつくり、ワークシートを工夫する

授業方法の工夫としては、テキストに基づいて乳幼児期の言語発達について概観した上で、領域言葉における主な児童文化財である絵本と紙芝居に重点を置き、紹介と実演を行なったことである。絵本と紙芝居については、教員からさまざまな種類の作品を紹介し互いに読み合った後で、学生自身が選書を行い、実演を見せ合う形をとった。また、実演の際は振り返りを丁寧に行なったのちに相手を変えて2回実演するようにしたため、上達の手応えを感じられていたように思う。元の教室は固定席だったため、学期途中に移動できる教室の変えていただいた。人数的にも大きすぎず、一体感を感じながら授業ができたことはとても良かった。今後に向けて、今期はプロジェクターなどの機器を使いこなせず、スライドで示したいものや動画で説明したい教材などを活用できなかったのが、再度使用方法を確認し、適切な形でも資料の提示ができるようにしたい。

この授業では、心理職に必要な講義を行っています。その性格上、学ぶべき項目は非常に多岐にわたり、膨大なものであります。工夫を行った点として、内容を理解しやすくするため、スライドを視覚的なものにしたり、動画を利用したりしました。また講義時に内容を理解しやすいように、後に復習がしやすいように、まなびネットでスライドを提示していました。また内容においては、その講義内容が心理職にどのようにかかわってくるのかをイメージしやすいように心がけていました。アンケート結果からは、授業中に学生に意見を求めたり、ディスカッションをしたりするような時間をあまりとれなかった点が課題と理解しました。次年度からの講義では、学生が自ら考える時間を設定していくようにしたいと考えます。

学生の批判的思考能力の育成を企図し「常識破壊」をテーマに15回実施した。体育授業実践VTRをもとに教育学・社会学・運動学などの諸理論をコラボさせ、体育とは全く違う角度から眺めてみる。その内容がウケたのだと思う。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

- ・毎回の授業の導入に、教育全般に関する最新の情報や授業に向かうモチベーションを上げる雑談を取り入れて、学生が興味をもって講義を受講できるようにしている。
- ・アクティブラーニングを心掛け、グループワーク・ペア活動を積極的に取り入れて学生自身が主体的に授業に向かえるようにしている。
- ・事前に資料を送付し、予習をもとに講義を受講できるようにして、講義内容の理解をより深められるようにしたり、復習に活用したりできるようにしている。
- ・学生から提出された課題に対してのコメントを全体で共有し、前回授業のリフレクションをもとにして講義を進めている。
- ・体調不良や公欠の場合の欠席について代替課題を出すなど、個別にきめ細かく対応し、欠席が続かないように励ましている。
- ・学生からの要望により、後期はできるものからまなびネットへ課題の提出ができるようにしていく。
- ・資料の精選や、課題ノートの作成のしやすさを工夫するなど、学生の声を聴きながら改善していく。
- ・非常勤講師なので、個人用アドレスの方が連絡が取りやすいため、学生にはシラバスで個人メールアドレスを知らせるようにする。

教育関連の仕事に就くことを決めている学生が多いため、今後のキャリアについて広い視野を持つことの意義をわかりやすく伝える工夫をしたいと思います。

共通教育科目(1)については、50名を超える大所帯なクラスなので、英語でのコミュニケーションという側面に焦点はおかず、その前段階である発音・発声のスムーズさを鍛える部分に焦点を置いた授業展開をしている。共通教育科目(2)では、アカデミックなトピックを英語でプレゼンテーションし、それに対して英語でコメントを行うという、日常会話から大きくレベルを上げた授業を行なっている。概ね好意的なアンケート結果であったので、今後もよりよい授業を行うべく、マイナーチェンジを継続的に行っていきたい。

学部3年生の教育実習に関わる授業と、学部4年生の教科指導法の授業とであるため、これまでの指導法における授業の学びを総括し、教育実習の場面や次年度の学校教育現場で直面するかもしれない実際の指導場面を想定して、例えば「学習指導要領の内容を踏まえると、授業展開はこのようになるのではないか」、「この場面では専門教育科目(1)で学んだ●●という教授法を活用すれば、適切な教育を行うことができるのではないか」、「この場面では、専門教育科目(2)の●●を活用すれば、学習者が適切にその内容を身に付けることができるのではないか」というような学びが得られるような展開を考えていました。学生さんたちからの疑問については、対応が遅くなることもありましたが、できる限り翌週、翌々週に回答をするようにしていました。これが学生さんたちにとって授業づくりをする際の参考になればよかったと思います。しかし、毎時の授業の中で、各グループ内で検討をする時間を取ることはできたものの、「全体でディスカッションをする時間」を多く取ることができなかったことから、グループ内で出たであろう疑問点に対して、より多くの視点からその疑問点にアプローチをすることができなかったように思います。その点については、授業を運営する立場として、時間管理の未熟さを申し訳なく思います。また、これまでの授業の復習をベースに授業内容を構築していることから、科目ごとの学びを結び付けることに意義を見だしていた学生には、授業が身になるものであったと考えますが、これまでに十分な学びが得られていた学生にとっては、いまさらという思いが強かったかもしれません。この点が、アンケートの回答にも表れているように思われました。いまさら感を抱く学生の活躍の場面を設けたいと思います。アンケートの自由回答で、大変ありがたく、勇気づけられる意見をいただきました。ありがとうございました。実習や現職としての勤務場面で、当該科目の学びが活かされることを願っています。方向性としては、学校現場で実習をしたり働いたりする際に生かすことのできる学びが得られるという視点は継続しつつ、これまでの学びをより活用できるような授業内容を考えていきたいと思っています。ありがとうございました。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

独自に工夫している点：輪読対象となる古典作品を「創作国語」という観点から捉え直して、古典への親しみを持てるような教材作りの糸口を探す練習を受講生と探っている点。

改善点：古典を正確に精読するための調査と語釈作りはどうしても地味な作業になってしまうので、この段階で学生の興味を保てるような工夫が十分になされているとは考えにくい。

工夫している点：知識をすぐに実践で応用できるように授業を組み立てている。

改善点：グループワークやディスカッションの時間をもっと授業に取り入れるようにすること。

グループ討論の機会を設けていますが、より多くの機会を設けていきたいと思います。教育現場の紹介も含め、今後もよりよい授業づくりに努めていきたいと思います。

スタンドアローン（見たら分かる、自明）の授業資料を作成し、配布。授業資料は、スクリーンに投影するとともに、受講生各自が手元のPC等で閲覧できるようにする。授業内容と連動した課題を提示・提案する。

実務経験を生かし、小学校音楽科での実践事例を紹介し、歌唱や楽器の演奏、音楽づくりを体験してもらう活動を行っている。また、そのうえで、履修者に模擬授業を行ってもらっている。アンケートにて「取り組むことが多すぎる」との回答があったので、課題の量はそのままだが、課題に取り組む時間を増やし、後期の講義に臨む予定である。

アンケートでは、授業後に独自に学ぼうと行動した点あまり伸びなかったため、今後、課題設定などを工夫して、授業後の学びにもつながるようにできたらいいな、と思いました。

「教材の読みについて深められた」「ノートを丁寧にとることで理解が深まった」といった意見もあれば、「ノートパソコンを一切使わないことに驚いた」という感想もあったので、ICT教育をもっと取り入れたいと思った。

授業方法について独自に工夫している点として、講義科目であっても、ほぼ毎回ディスカッションを取り入れていること、また、授業時にスムーズにディスカッションに入れるように、予習としてまず個人で考えておくことを指示しておくことなどがある。このような点が、アンケートの質問3（自主学習の指示）・質問4（質疑応答の機会）の評価が比較的高くなっている要因と考えられる。その他の質問も全体的には肯定的回答が比較的多い傾向にあるが、一方で、例えば質問8（自ら行動）で、否定的回答も若干ではあるが一定割合見られるため、授業外での積極的な学習を一層促す工夫などは今後の改善点として検討したい。

知識を送り出すだけの一方向の授業ではなく、可能な限り能動的な学習ができるようにグループワークを多用した。人工知能など最新の研究成果を導入した。

特に、教育内容に関わる授業では体感すること、教育法に関わる授業では思考することに重点を置いた。アンケート結果の全体からは、学生自身の主体性を問う項目にやはり課題が見受けられる。より思考を働かせる授業において、自主学習への意欲との関連性に課題が残るため、授業内においても、その動機づけとなるであろう試行・体感の機会を可能な限り取り入れるよう留意したい。また実技面では、一部の学生から、基礎的技術の習得に関する課題が挙がった。集団での授業形態かつ限られた授業時間ではあるが、各学生に必要な指導を心がけたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

【独自に工夫している点】これまで講義の授業では、1.テキストの適切な使用、2.補助プリントの作成、3.新聞記事等を活用した現在の教育問題との関連づけ、4.小レポートを活用した双方向的な授業などの工夫を行ってきた。最近では「まなびネット」をできるだけ活用することになっている。資料の作成に際しては、見やすいPPTスライド作り、情報の明確な提示、分かりやすい授業展開、教科書や補足資料への効果的な指示（関連づけ）に注意した。また、学生の負担が過重にならないよう、課題提示の回数を抑えることにした。

【アンケート結果を受けての改善点】回答率が低いものの、アンケート結果から見て、授業の教育目標はある程度達成されたと思われる（ただし、同一の授業でもクラスによって評価が異なっている）。教育をめぐる状況の変化はめまぐるしいので、毎年、新しい情報を盛りこんでいく工夫を続けたい。今年度前期はすべて対面授業で行った。授業時間中に受講生相互の意見交換の場を設定することが難しかったが、「まなびネット」の「フォーラム」をある程度活用することができた。課題（小レポート）の頻度は、授業3回につき1回とした。このレポート提示のタイミングや提出期間までの時間的な余裕については、おおむねよい評価をえることができた。課題に対するフィードバックにも心がけてきたが、受講生によっては不十分に感じている回答もあった。この点が、今後の最大の課題だと考えている。

いずれの講義においても、受講者との対話を大切にしている。が、アンケート結果からはまだ足りない様子である。

本授業は3名の教員による3領域から5回ずつ行っている。また、同じ内容を理科専攻の学生に対して3コースに分けて行っている。アンケート結果はほぼ同じ傾向がみられる。いずれも未回答の学生が半数以上いたが、比較的教員の課題として多かったのが、予習・復習などの自主学習の指示、グループディスカッション、汎用的な能力の向上である。実技系の授業ということもあり今後の課題である。それぞれの教員が独自に工夫しているが「よくあった」「とてもそう思う」の割合が高くなるよう努力したい。

・専門科目について、受講者が少人数だったことや新型コロナウイルス対策が緩和されたことを受け、数年ぶりに講義スタイルではなく、演習形式（文献購読、数人のグループでレジュメを作成・討論を実施）に切り替えて実施した。講義スタイルは系統的に必要な知識等を伝えることができるが、演習形式の方が、学生にも緊張感があり、討論のテーマを考えることの難しさや、討論がどのような方向に進んでいくかわからない不確定さと面白さなど、たくさんのことを学んでくれたように受け止めた。

・購読する文献の選定について、今後も最新の出版物等に広く目を通しつつ、学生にとってより良いもの（より安価なものや、より簡単なものを選ぶという意味ではなく）を選ぶことができるように日頃の準備がとても大切だと改めて考えた。後期の演習科目等で活かしていきたい。

回答者は少数であったが、回答結果から、受講生が授業に対して概ね満足している様子が見えてきた。本授業は複数の教員が比較的少人数の学生を対象に進めている。いずれの教員もグループワークを多く取り入れ、受講生が演習課題について多角的に検討し、相互に学びを深め合えるよう種々の工夫をしながら授業を展開している。今後もこうした手立てを継続し、受講生の実践力育成につなげたい。

講義・演習では、教員から学生への一方通行にならないよう心がけるとともに、グループ内でのディスカッションができるようにグループワークを取り入れた。アンケート結果より講義内容についての一定の理解はできているように読み取れるが、アンケートへの回答が少ないことから判断は難しい。また、講義の進め方で「スピードが早すぎる」と指摘があったことは大いに反省すべきである。特に演習においては、学生の理解度に合わせた進め方を心がける必要がある。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

今後も分かりやすい説明を目指し、受講生のニーズにこたえられるような授業を行いたいと考えます。

授業方法は、しっかりとシラバスに説明し、それに沿って誠実に授業を実施するように心がけた。専門教育科目(1)のような数式が多い授業はどうしても最初の段階から、学習意欲をなくす可能性があるためキャッチボールを繰り返し、学習意欲を繋げていくようにした。専門教育科目(2)は受講者が協力し学び合うALが成立した授業であった。シニアの授業に関する反応は概ね良好であったようである。一方、専門教育科目(3)のような解説的な授業に関しては、受講者にはスムーズに受け入れられると感じていたが、ジュニアにはキャリアの差があり、学びの深度が異なっているように感じた。特にジュニア対象の授業に関しては内容を平易に解説するよう心がけ学習者のモチベーションを維持する必要がある。

専門教育科目は正規の受講者はおらず、研究生（留学生）のみだった。日本語運用能力に合わせて、彼（女）らの専門の分野にも役に立つような授業を行った。今年度今期に限ったやり方なので、あまり参考にはならない。共通教育科目は毎年担当しているが、授業内容の一部に変更すべき・追加すべきなどの見直しは常に行っている。今年度も、例年に比べて課題提出が多かった。そのため、何度か提出ができなかった学生が、数名いた。提出課題の負担をもう少し減らし、さらにインタラクティブな授業ができるようにしたい。

技能であり、自らが感覚として理解すべき点多々あるため、筆先がどのように動いていけばよいかをできるだけ丁寧に説明した。

工夫：小学校における児童のさまざまなケースを想定して授業を組み立てた。ディスカッションの時間をもう少し設定する必要があったかと思えます。

理論だけでなく日常的な事象と絡めながら理解を深められるような授業を心がけた。また、アクティブラーニングとして授業中にGoogleフォームを活用した意見交換の場を設け、学生の多様な考察を共有し合えるよう工夫した。アンケート結果から課題へのフィードバックが学修への意欲や理解を深めていたことが伺えたので、今後も継続したい。

全体として概ね良好な結果であったと考えられる。スポーツ実技を主題として扱うが、その根幹は運動量の確保と運動習慣の形成、また指導技術の定着にある。男女の共修科目であり、主題となるスポーツ種目における経験者と初心者が混在する中、概ね良好な結果が得られたことについては一定の評価ができるのではないかと。本講義の履修者は扱うスポーツ種目における経験および技術習熟度の差がみられるものの、履修者の基盤としては初心者が多くを占めている。授業展開としては、ゲームの運営や、実技指導のための学習を主体的に行うことができ、戦略的かつ実践的にスポーツを楽しめる素養を持ち、育むことができるよう、習熟が進むような形態とした。ルールを理解や基礎技術の習得は、生涯にわたってスポーツを楽しむ上でも、また教員として指導にかかわる場合においても重要な素養となる。全体的に満足度がある程度高く見受けられるため、本講義におけるねらいに対し、効果的な内容を展開できたと考えられるのではないかと。授業の展開については大きく変更せずに今後も展開していく予定である。各種目における基礎的な技術の習熟を促し、楽しむ姿勢を養うことで、教員として生涯にわたってスポーツを楽しむ、また指導を実践していくための素養を醸成していきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業の一つでは電子的に「コメントシート」を提出してもらい、そこで出た疑問や意見を次の授業回で紹介している。一方、大人数の授業の場合、時々散発的に授業内で意見を求める以外は双方向のやりとりを行っていないので、今後はこの点を工夫して改善したい。また、授業内の課題などの指示を明確にできるようにしたい。

専門教育科目においては、実技能力の開発ではなく、教育内容を踏まえた授業改善ができるような力の育成のためにグループワークを取り入れている。アンケート結果で1名の学生から話が長く熱中症になりかけたとあるが、実技ではない、グループワークでの話し合いの時間のことを指していると考えられ、実技ではない中で熱中症になりそうだったことを主張しているものと考えられます。愛知教育大学の環境上、高温な中授業を展開していかなければなりませんので、水分を手元に準備させて活動させるなどの改善をしたいと思います。

今学期は、担当内容が非常に大変なものや専門外の授業が重なり、授業を行うだけで精一杯でした。課題返却はできる限り早めに行うようにしていましたが、科目の特性上頻度が多いので、課題返却に非常に時間がかかりすぎました。そのため、工夫等は考えられる余地がなかったです。

- ・ 授業については、はじめに本時の目標を必ず伝え、学生が授業の終わりのイメージをもてるようにした。
- ・ グループワーク・ペア活動を積極的に取り入れ、学生自身が主体的に授業に向かえるようにしている。
- ・ 学生から提出された課題に対して必ず目を通し、よいところを見つけてコメントをし、授業に向かうモチベーションを上げるようにした。また、質問が書かれていた場合は、返却時に説明をすることで理解を図った。
- ・ 教育法、教育内容については、教える立場になったらという視点での講義に努めた。
- ・ 体調不良や公欠の欠席について課題を出すなど、個別に細かく対応し授業の遅れがないように努めた
- ・ 学生からの要望により、後期も課題に対してできる限りリフレクションを心掛けていきたい。また、引き続きまなびネットへ必ず資料を載せるようにし、学生がいつでも授業を振り返れるようにしたい。
- ・ 学生からのアンケートの回答率が低かったので、後期は授業の中でもう少し働きかけをしていき、授業の改善に努めた

い。

- ・ 問1の「授業内容の「意義や必要性」について十分に説明され、さらに学びたいと意欲がわくものであった」、問2の「理解しやすいように、資料や機器の利用、活動環境設定、コメント提供などに工夫のある「教え方」が展開された」に関しては、回答者58名中、94%が、よくあった、ある程度あったを選択していることから、学生の授業に対する期待に一定応えることができたと考えている。
- ・ 15講義、内容をぎっしり詰め込みすぎたので、学生同士が時間をかけてディスカッションする時間をもう少し取るように改善したい。

前期担当の各授業の内容は、共同担当の専任の先生方が作成されています。サポートと課題の評価&フィードバックを主に担当していますが、過年度に比べて点数評価の機会が増え文章によるフィードバックが減少しています。それでも限られた範囲内で極力学生とのコミュニケーションを心がけています。

技術科の実践報告で内容・方法で特徴のある実践を紹介した。内容が難しい報告に対してもよく検討していた。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業方法の工夫点としては、

- ・情報科の見方・考え方や学習プロセスを都度ごとに示しながら行った。そのなかで、毎回すべてを実行できるわけではないので、今回の学習課題は、この点を重視する、というようなことを伝え、何に注目するかを明確にした。
 - ・メディア授業であったため、オンデマンドで、主に講義や課題の作成を行い、対面では案を発表し改善点を話し合ったり、発表と相互評価を行うなど、オンデマンドと対面の役割を明確にした。
- 改善点としては、相互評価の精度をどのように挙げていくかを検討したい。

授業では、対面でも毎回ZOOMを使用し、資料の画面共有、チャットでの全員Outputとその共有、アプリの共有アドレスをチャットで配る、アプリの共同編集などを行った。ICT機器は現場に出ても使えるようになったのではないかと考える。また、実践的な授業技術を多く紹介したので、学生による模擬授業の中でも多くの使用例が見られた。

教科書に書いてある以外の化学的な知識についても紹介した。（太陽光線と蛍光灯やLEDの光との違いについて、など）今後も、化学と日常の暮らしの中で経験する自然現象との間にどのような関わりがあるかについて、受講生にとってわかりやすい説明を行っていきたいと考えている。

授業において、ICTを活用して自分の考えを発信し、それを基にして学生同士がコミュニケーションを通して意見や質問をすることによって、多様な考えに気付いたり、学修を深めたりできるようにしている。アンケートの回答率が低かったが、意欲や関心をもって学んでいる様子が見受けられた。今後も学び合いの時間を確保した授業を行っていきたいと考える。

工夫点：学生自ら、生活の中から課題をみつけ課題解決学習を実践できたこと。
改善点：フィードバックの方法

基本的に毎年同じ答えなので、基本的にそのままに維持していきたいと思います。

学校現場における、様々な教師としての実務（授業、学級経営、生徒指導、諸活動の円滑な運営…）について、トータル的に関連付けながら任務を果たしていくことが、教師の役割であることを意識できるような指導をしていきたい。

事前に講義内容の資料を配布したり事前課題を課すことについて、評価するコメントが見受けられた。今後もこのような反転学習を取り入れた講義や演習を行なっていきたい。

生徒の心の中の自主性・やる気に火をつけ、学びを進めていく授業形態を常に目ざしています。生徒の状況を的確に把握して、より効果的なものにしていきたいと考えます。

わかりやすく、丁寧に指導することはもちろんのこと授業が終わっても自分だけでも続けられるような勉強法を身につけて欲しい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

【独自の工夫点】「独自のもの」とは言えないかもしれないが、一方的な授業にならないよう演習問題を解く時間をとったり、質問や議論のための時間を設けた。授業で何かを説明する際は、論理的に厳密な説明と直感的で大雑把な説明を状況に応じて使い分けた（あるいは併用した）。証明の全体像をまず口頭で話してから証明に入った、など。

【改善点】いくつか改善のための提案（批判）を頂いたものの「あちらを立てればこちらが立たず」という面もあるので実行するかどうかは慎重に検討したい。

工夫した点：DVD視聴や写真の提示などを多くして、幼児の実際の姿を見て、事柄の理解を深めるようにした。

改善点：質問があるか聞いたことが度々あったが、質問は全くなかった。疑問に思うことや分からないこと、さらに知りたいことなどを話しやすいよう こちらからの言葉の投げ方や、話しやすい雰囲気にするのを工夫したい。

まなびネットの投稿機能を使って、授業中のグループディスカッションで出された意見を授業中に投稿し、授業時間中に相互に読み合うことができるようにした。すべてのグループの意見を知ることができてよかった、という感想が多かったので、継続していきたい。

担当授業が担う職能形成の性格に合わせた対応を、継続して取っています。アンケートでは学生の回答傾向は判明しませんが、日頃の学習ログの記述状況で学生の受講傾向を把握しながら、学修プロセスを調整しています。学修時に自らの見通しや振り返りを行って、表面的ではない真の学びに挑んでいただけるよう、今後も環境構成をしていきます。

工夫している点：教科書の内容を理解しやすくしたレジュメを活用している。

改善点：専門知識の定着を高めるためのアウトプット機会を作る（小テストなど）

授業方法については、学生同士で意見交流や協働的な学びができるような授業展開を意識している。LGBTの観点から男女でペアを組むなどの言い方には気を付けていたが、気にしている学生がいたため、言い方にはさらに気を付けていこうと思う。

小レポートや提出課題に対しては、本コースで卒業論文を執筆していくために必要な語彙や用語の使用法などを身に付けられるようコメントを付けて返却することを心掛けており、受講者にも概ね受け入れられていると考える。受講者同士での意見交換をより活発に促すためには、グループワークのためのグループ分けを授業の早い段階で行っておいた方が良かったように思う。この点は次回から改善していきたい。

教育現場のニーズを踏まえ、学校現場で指導に困る場面などを取り上げて学生に考えさせるようにしている。

講義をオンデマンドで、課題の説明とレビューを対面で行なうというように、適宜、授業の形式を使い分けている。アンケートの回答率が低かったため結果の分析は難しいが、課題の提出物を授業の中でレビューする試みは、好意的に受け止められているようである。ディスカッションのための時間をもう少し増やすことが今後の課題である。

学生が主体的に学びを深めることができるように問いかけを工夫している。アンケート結果を受けて、例えばスポーツ科目ではゲーム形式の授業を通して種目特性を理解するなど、学生が主体的に取り組むなかで授業の要点を把握できる授業にしていきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学生のミニレポートへの回答は学生の学びの深まりに寄与していることが分かった。一方で、内容を深めていくよりも、すぐに実践できる教材づくりや支援方法の方が満足度が高い。技術も重要だが、それらが専門的知識に裏付けられたものとなるように、知識部分をより分かりやすく実践とつなげていきたい。

知識や技能の習得とともに反転授業やグループワークなどを取り入れて学びを深める授業構成を計画します

いずれの授業においても、受講生が将来出会う子どもたちのために、できるだけ豊富な知識と経験を得られるように、授業の内容と進め方を工夫しています。特に、受講生自身で思考し、試行錯誤しながら経験を重ねられるように考えています。アンケート結果では、そのような思いが受講生に伝わっているように思いました。

学生が興味を持ち、分かりやすい資料が提示できるように努力していきます。

授業のアンケートを見る限り、授業の内容の理解は概ね行われていると考える。ただ、授業で学んだことを自ら追究したり、授業の内容を受けて、汎用的資質能力の成長については、学生の中で不満があると考え。前者については、もう少し書籍や論文の紹介を増やし、読んでもらいたいものを具体的に提示していきたい。後者については、授業の性格上、教科教育の内容となっていることから、汎用的能力として意識させることが難しいが、他教科との関連を踏まえて算数科、数学科において培える汎用的能力についてももう少し具体的に教材に入れていきたい。

今回はとくにグループで発表した時にでた質問に関して、授業後に宿題として調べて提出してもらった。また、その宿題についても教員からコメントを行う等相互やり取りを通して学びを深める機会を設けた。今後は現在習っていることが今後どう活かせるかといった観点からも話を深めていきたい。

聴覚障害学生への情報保障として、講義では手話を使うほか講義内容を後から確認できるように文字情報を多くした資料を作成して配付している。このことは、聴覚障害学生への配慮というだけでなくすべての学生に対して、分かる授業に繋がると思っている。一方でデメリットとして自ら分からないことを調べたりする意欲や態度に繋がっていなかった面もある。バランスを考えていきたい。

講義は、学生の意見を求めたり質疑がかなり多くなるように行っている。また、社会科を教える上で必要なこと、教師が深く考えて理解しておかなければいけないことを、なるべく多く取り上げている。昨年度後期よりも改善を試みた。不足な点は、さらに改善するように心がける。

授業アンケート以外で聞いた学生の声も合わせると、個々の受講生のニーズがそれぞれ違っており（オンデマンド・対面のバランスも含めて）、それらに対応する工夫がさらに必要であると感じた。

工夫している点：授業の冒頭にアイスブレイクをいれるなど、授業中に発言しやすくするための準備を設けている。また、冒頭で学習目標を毎回明示強調して、授業の終わりにそれが確認できるようにしている。
改善点：教員から意見を求められたり、グループワークの時間があつたかについて、やや不足していたことが推察される。情報の伝達量を抑えてつつ、学生がより発言できるようにしたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

メディア授業のため、一方向の情報提供になることは否めない。しかし、現場を熟知している人々の生の声を伝えることは意義のあることと考える。今後とも情報をアップデートしながら、今の現場・今の課題にふれる機会を提供したい。

学生自身が考え、意見交換することを大切にしている授業ですが、話し合いの時間が長いという指摘もあったため、単に知識を提供する授業ではないことをシラバスでしっかりと示そうと思います。

学生や専攻により美術に対する興味や、関心度に違いが多すぎる。絵画における技法について正確に教えているつもりだが、丁寧さや集中力を持ってない学生が多い。

〈専門教育科目(1)〉

- 1.座席指定をし、ペアや班を固定することによって、交流による活動を充実させている。
- 2.現在の講義内容に、教材分析や教材研究の時間も取り入れ、学生の学びを深めるよう努めたい。

〈専門教育科目(2)〉

- 1.模擬授業を取り入れている。一人ひとりが教材研究を行い、全体の場で相互に評価し合うことによって、授業の技術向上を図っている。
- 2.指導案の書き方や授業の展開手法につながるように、教材分析や教材研究の時間をさらに充実させ、学生の学びが深まるよう努めたい。

授業内容は事前にPDF資料をまなびネットに置いてあったことは予習復習に役立ったようである。基礎科目であるがゆえに、入学時点での学力差が授業を通して顕著に現れるため、みんなができることを要求した内容に関しては暇な授業であると認識する学生がいた。この点に関しては、軽い内容だけでなく重い内容も資料として提示しておくことを試みたい。

独自に教材を作ったが、個々の技能により理解度が異なるため、今後、より丁寧な説明を心掛けたい。

工夫している点：現場の実態（子供や保護者、教師）の様子を実体験を含めて講義に盛り込んでいる。また、授業開始10分間で幼児教育・保育・子供に関する記事等を提示し、教育界についての関心を高めていけるよう話をしたり、記事等を配布している。

改善点：子供の活動や姿等を動画で見せながら、より身近に考えられるようにしていきたい。ディスカッションの部分をもう少し多く取り入れていく。

自主的に考えて調べられるような環境づくり。自己解決が難しい場合に質問しやすくする。

本授業では、教科である音楽そのものの理解を深めたり、現場の授業で取り上げる活動を体験したりすることにより、指導する際の授業づくりの考え方を学び、子どもへのアプローチの仕方や留意点に気づいていくような内容を工夫した。アンケート結果から今後は、授業でとらえたことをさらに深めて、積極的に自分自身で探究するモチベーションにつながるようにする、本教科だけでなく他の分野や事象との関連や、今後の社会生活や職業生活への汎化につながるようにする、などを心がけてより工夫していきたいと感じた。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学校現場で使われていることが多いロイロノートを活用し、授業を行なった。今後は、学生同士で考える時間や話し合いの時間などを設けたいと思う。

事前課題で各自が学習してきた内容を元に、授業ではグループでのジグソー学習を取り入れている。ジグソー学習で学びを深めた後、事後課題としてグループでまとめたレポートを集約し、期末に学生に還元した。話し合いを取り入れると時間がかかるが、実習科目であるので、今後は実技を行う時間を増やし技術の習得に努めたい。

学部授業では単独で専門教育科目、複数教員とで共通教育科目を担当した。専門教育科目については、前半を教育現場における課題と教育支援に関する講義に使う一方、後半には学生を同コース内でグループ分けをして、教育現場や子ども・保護者・教師に関わる課題についての論文等資料検索とグループごとで決めたテーマの発表会を行うアクティブラーニング主体の授業構成とした。学生のアンケート回答率は91.0%と非常に高く、また「よくあった」「ある程度あった」などの肯定的回答の合計は、いずれの設問でも未回答を含めた割合で8割前後～9割以上と高い評価となった。一方でグループ活動では個々の差も多く見られたため、より分かりやすい授業とすることやつまづいているグループ・学生への支援について改善することが必要と思われた。共通教育科目はオンデマンド授業ということもあってか、回答率が1単位版で18.0%、2単位版では0%という状況であった。未回答を除いた場合の回答者の肯定的割合にすると肯定的な割合が高くなるが、半々となる設問も1つみられるなど、授業形態の影響もあってか学生の関心は低い様子がうかがえた。本授業は構造的に一教員ができる工夫の反映は困難であるため、実際の運営は考慮せずアンケートを評価を高めるという面を考えた場合には、授業構造自体の見直しも求められるかとも考えられる。

- ・外部の専門家を招き実践的な話を聞いたり、フレームワークを使って課題を明らかにさせるなど、学生が主体的に取り組むための支援を意識した授業を心掛けている。
- ・学生同士の対話、意見交換を意識したグループワークやワークショップといった対話型の授業展開について心掛けた。
- ・授業後、振り返りシートに授業の要点や課題に思う自身の考えを書かせることで、授業の理解、課題意識の向上に努めている。
- ・teams、まなびネットでのアンケート機能やチャットの活用など、授業のなかでの学生とのリアルタイムな意見交換について取り組んでみたが、効果的な活用方法について、今後も試行錯誤していきたい。

実務経験のある講師として、実際の現場で起きていることを可能な範囲で伝えていくことを重視し、実際問題を想像しやすくなるよう工夫しています。しかしながら、学生にとっては対面授業に参加する意義が見出しにくい講義形態となっているようですので、ディスカッションをより積極的に取り入れたり、対面でないと得られない体験になるよう改善し、より実際問題を議論できる形を目指していきたいと思います。

授業開始時に、出席管理と前時の理解度の確認を兼ねて小テストをしている点ですが、授業法についての工夫と思われる。小テストは、前時の指導内容全てから出題されるが、アンケートをみるに、毎回の小テストがどこから出るか気にする学生は一定程度いるようである。授業ではそれを示唆することも多いが、露骨な示唆は授業外の学習を矮小化するものであるし、テストのための学習という学習態度の強化を促進しかねないので、避けたいところである。小テストの成績に占める割合は2割と低いのだし、定期テストの対策にもなるため、続けたい所であるが、改善点としては成績に占める割合を更に低くする事であるかもしれない。授業ではスライドを多用するが、スライドの抜粋を事前に配布しない授業では、それを「まなびネット」に事前にアップロードしてほしいという要望があった。ネタバレにならない部分は、プリントアウトして配ってもよいが、白抜きをしたり、相当の工夫が必要になるものが多いので、徐々に改善しつつ、プリントとして配るような工夫を試みたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

すべての授業は、対話を基本としています。教材は、文章だけではなく、動画やアニメーションを多く用いています。また、すべての教材、資料をインターネットで提供しており、受講生はいつでも参照やダウンロード、質問等ができます。

授業では、学生の発表やレポート等の課題に可能な限りフィードバックをしたり、質問時間を設けるなど、学習内容が定着するような工夫を心がけた。また学習内容が実践や研究にどうつながるかを明示しました。アンケート結果をふまえて、今後は、複数教員で実施する授業では、非常勤講師の先生とより丁寧に内容や課題レベルの調整を行うなど、心がけたいと思います。

パソコンの操作を伴う内容に関しては、動画を用意して、各自のペースで学習できるようにしている。

毎回の授業後にコメントシートを提出させ、次回授業の冒頭で質問に答える時間を設けている。アンケートにおいても概ね好評であるので、今後も続けていきたい。ただ、質問が多い場合はすべてに答えられず、取捨選択することになるので、なるべく多くの質問に答えられる工夫をしたい。

一方的な講義にならないように演習問題・小テストを取り入れて、学生同士の学び合いを促した。小テストの難易度に対する意見があったので、授業内での説明や解答例を充実させることで、学生が意欲的に学べるように工夫していきたいと考えている。

外国語不安軽減法を用いて授業をしています。テストに関する説明をもう少し増やしたいと思います。

本年度はじめた新しい試みとして、共通教育科目で実施した、formsのクイズ機能を用いた選択式のミニテストがある。初習外国語は人数が多いので、ミニテストを頻繁に行うことは労力の点で難しいところがある。formsのクイズ機能を用いると、そこがクリアでき、出せる問題に制限はあるが、前回の復習的な問題を短時間で行うことができた。アンケートでは、一発勝負になる期末テストに不安を述べる学生もいたので、今後も有効な方法のように思う。教員としては、スマホを全員が持参し、授業の特定の時間にアクセスできることが前提になるのに不安があるのだが、実際には、少なくとも今のところは、問題にならなかった。

受講生が能動的に授業参加できるように、授業の内容および方法・組織形態の創意工夫に心がけてきた。たとえば、優れた授業の実践事例を紹介したり、視聴覚教材を利用したりしながら理論と実践を往還させる授業、体験活動を取り入れたり、個人やグループで活動したり、ディスカッションしたり発表したりする授業等である。今後も基礎的な理論を軽視することなく、受講生への動機づけ、そして理解度に合わせた授業の創意工夫も行っていきたい。

前期の授業では体育実技を担当することが多く、安全管理上、基本は2人組みもしくは3人組のパディで活動を進めています。パディを進めることで安全管理面の利点だけではなく、互いに体調を気遣ったり、教えたり教わったりする経験や課題に対してディスカッションの機会を設けて進められるように工夫していました。概ね、アンケート結果も課題は多くなかったと考えられるが、質疑応答の機会があまりなかったと捉える学生も1名いたため、その点については機会の確保や質疑応答がしやすい環境づくりなど、次年度は改善したいと考えます。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

今回の結果では、「未回答」の割合が全履修者数の5割近くを占めていたため、残り5割の回答から判断したことに基いて記述する。問1～8の8項目のうち5項目においては、全体として肯定的な回答を得ることができた。残り3項目については反応が分かれたが、これらは、他分野・事象との関連づけを問う「問6」、汎用能力の向上を問う「問7」、自主的な調査の有無を問う「問8」である。本授業では、教材に英語ニュースの原稿や映像を用いることにより、履修者が語学学習を通じて社会的な視野を広め、様々な分野・事象への興味関心を深められるよう努めている。一方で、外国語教育講座の方針上、本科目ではTOEICの獲得点が単位認定や成績評価に大きな影響を及ぼすため、まずは履修者の語学力の向上に最大の時間と労力を注がなければならないという現状がある。今後、単位認定や成績評価における担当教員の自由裁量の度合いが増えれば、より履修者の発展学習を促すような活動を採用していきたい。自由記述の設問では貴重な意見が複数寄せられ、書いてくれた履修者たちに感謝している。いずれもぜひ次年度へ活かしていくつもりであるが、ここでは特に、平常点や予習点を記録する際に人違いがあったので不安だったという意見に回答したい。これについては、授業内に気づいて訂正したことがあったため、あらためて履修者に深くお詫びしたい。教員側では予防のために、毎回、授業開始時に履修者の席を順に周りながら、座席表と照らし合わせて本人に名前を確認し、出欠や予習の有無、教科書や辞書の持参を記録している。とりわけ出欠については、途中から入室してくる者もいるので、授業中、履修者が黒板に解答を書いている間に教室を見回し、複数回の確認を行っている。来期からは授業開始時の確認をより注意深く行い、授業終了時にも再び教室を見回すなどして、確認を徹底したい。

授業の構成・展開においては、単なる暗記的な基礎知識の学習に留めず、それを学ぶことにどのような意義があるのかを提示することを意識しながら解説に努めた。また随時ミニレポート的な課題に取り組みせ、復習と考察の機会が得られるように努めた。アンケート結果は概ね良好であったが、今年度の授業を終えた実感として、出席状況や課題や期末レポートへの取り組み内容等を鑑みると、教職を目指す学生として意欲的に学ぼうとする者と教養的な履修感覚に留まる者との温度差が小さくないような印象を受けている。本科目は教育大学での学びのあり方について問題提起を担う教科の一つと捉えているが、そのメッセージを今後一層強調していきたいと考える。今後の改善として、課題管理や取り組みの弱い学生を学修内容に巻き込んでいけるような授業や課題の設定・活用等を考慮していきたい。

共通科目であり、授業内容やスライドなどは全クラスで同じではあるが、それでは少し足りないと思うことについては、説明や作業をほんの少し追加したことがあった。

主体的な学びを促すために、グループディスカッションや模擬授業を積極的に取り入れているが、受講生のアンケート結果からはあまり効果はみられなかった。

実技指導を含む授業内容のため、個別に指導を行う時間が多くなることもあり、指導の順番が来るまでの待ち時間中に別の課題で学習しているが、効果が上がっていないようである。添削までの時間待ちへの対応を検討していきたい。

英語を苦手であると意識している学生にも、現場で教えることができるための基礎を学んでもらうことを目的としました。人数が多いので、英語を伸ばしつつ、教科の内容について扱うことが難しかったです。個々の活動の目的がクラス全体に行き渡っていないこと、そしてスライドの切り替えが早かったことがあったようですので、その点は改善していきたいと思えます。

物理現象には、数学を用いた抽象的な概念が多いため、理解を促すため、演示実験を実施したり、プリント内で運動の軌道を図示するなどの工夫をしている。アンケートでは、協働的な活動が少なかったという指摘があったため、来年度以降の授業では、この点を改善していきたいと思う。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

独自の工夫は特になく、オーソドックスな講義、演習の授業をしている。アンケートでは学生が相互に関わる機会がもっと欲しいようなので、改善したいと思います。

- ・化合物の構造をわかりやすくするため授業で分子模型を用いる様にしている。
- ・年々学生の理解度の低下が見られるので、基本的な事項を繰り返し振り返る様にしている。
- ・学生とのコミュニケーションが難しい時代になってきたと感じるが、どうすれば良いかはわからない。

本コースは人数が多いため、普段は講義形式が多いが、この授業は国公立大学ならではの少人数グループでの双方向のやり取りを大切にしている。初学ならではの素朴な疑問を言い合えるような雰囲気を心掛けている。

まなびネットを活用し、授業資料を提示したり課題の提出をさせたりしている。また、毎回出欠確認で前回の復習をさせたり、授業で扱った内容の設問を出題して授業内容の確認をさせたりした。授業アンケートを受け、確認のための課題の解答時間をもっと取ったり、課題の意図の説明をもっとしたりする必要があると感じた。説明が不足している点もあったようなので、来年度以降は改善したい。

T2なので、T1の先生ができる限りやりやすいように支援することを心がけていました。T1の先生方が、とても気を遣ってくださって、話を振ってくださったりしたので、学生に必要な補足などをお話しできて良かったと思います。指示が聞こえにくいという意見について、真摯に受け止め、更にフォローできるように努めます。

工夫：パワーポイントと板書を組み合わせて授業を進めている。

改善点：グループディスカッションなどが不足しているので、増やすようにする。板書のスピードを上げるように努力する。

授業では、全体の目標に照らして各回の内容や意図を冒頭およびまとめのところで強調するようにしている。また、各回の内容が受講者の中で連続する物ととらえられるように、前時の学生の授業感想の振り返りからはじめるようにしている。受講者の回答数は少ないので評価は難しいが、一定の効果はあるように理解した。

今回の二つのアンケート対象のどちらの回答からも、「授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った。」に関して、特に工夫が必要だと感じた。今のところ、質量、さらにはアクセシビリティの点でも学生が手を伸ばしやすいものを提供するように心がけてはいるが、さらに工夫して、うまく学習行動が広がるように授業を展開していこうと思う。

- ・課題を課す理由を説明した
- ・早口という指摘があったので、丁寧にゆっくり話した
- ・課題の量を減らした

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業では学生が自主的に授業の内容に参加できるよう、項目ごとにとっつきやすい質問を行ったり、グループワーク等での対話を取り入れ主体的、対話的に授業が展開できるように工夫した。一方、基礎的な知識も必要であり、授業の最初の方ではベースとなる基礎的な知識も取り入れられるように工夫する必要がある。また、授業以外の時間で学生が授業の内容について調査したり、考えたりできるような工夫をもう少し取り入れたいと考えている。探究活動の授業では学生に調査や発表を求めているが、教員がどれくらいアドバイスをすべきかが難しい点だと感じた。基本的には自主的な活動を通して自身で学ぶ術を習得してほしいのだが、学生によってはもう少し教員の介入が必要な学生もおり、その辺りのサポートについても今後検討していく必要があるように感じた。

授業の前半に、基礎知識の修得を目指した講義型の授業を実施し、後半はグループワークを含んだ主体的・対話的な形式を取り入れている。例年、自由記述によって来年度の授業への改善点を示唆されるが、今回はそれが少なかったため、アンケートのことを伝える際に自由記述を学生に促してもよかった。

学校現場で起こる問題等を提示し、学生自身が身近に感じられるように工夫している。
学生が準備や復習を行うための時間を確保するための動機づけを行う。

ICTの指導力向上のために、ICT支援センター、こらぼと連携して、実習校に合わせたソフトウェアの練習を行い、実習先の授業で活用できるようにした。

共通教育科目に関しては概ね好評であったものの、「専門知識を他の分野や事象と関連づける」「関連する資料などを自ら調べる」などで低評価が散見された。また専門教育科目は、評価が分かれ、各項目で低評価が散見された。どちらの授業題目にしても、一方的な講義形式であることがそのような評価の原因とみられる。今後の改善点としては、講義形式の中にも部分的にディスカッションを取り入れたり、小テスト・レポートなど授業外の課題を課すなどして、多様な学修経験を与えられるようにしたいと思う。特に、専門教育科目の授業題目に関しては、改善が必須である。

ロールプレイなどを多く取り入れることで、カウンセリングに代表される心理支援の実際を体験的に学べるよう工夫を行っている。他方で、事前準備や予習などを必要とするロールプレイは少なかったため、受講生の自宅での学習も促す意味でも、さらに強度が高く実践的な、事前準備が必要なロールプレイなどを導入することも改善方法として検討している。

受講生の理解度を押し量りながらゆっくり丁寧に授業を実施していたつもりだが、人によっては「繰り返が多い」「説明が回りくどい」「要点を得ていない」等の不満を持った方もいたようだ。今後はこのような意見も真摯に受け止め明瞭で分かりやすい授業を心がけたい。また、毎回講義のフィードバックも効果的に活用しながら受講生自ら考える深い学びの機会も提供したい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

- ・担当授業ごとにコメントシートを作成し、毎回の授業の最後に、学生に授業の振り返ってもらい、考えたこと・疑問点・質問したいこと等を記述させている。履修学生のすべてのコメントシートに目を通し、教員の負担が大きくても、すべての学生のコメントに対して、朱筆を入れてフィードバックしている。重要であると判断した質問の回答は、次回の授業の最初に取り上げて、すべての学生に説明して情報共有している。
- ・15～20分に1回、学生に発問をして、1～2分意見交換を行う機会を作り、その後、2、3名を指名して意見を述べさせている。教員の話聞くだけでなく、学生が主体的に対話的に学ぶ機会を、できるだけ作る努力をしている。
- ・手話の基礎、手話の応用の授業は、模擬授業の要素を取り入れて、教育実践の機会を作っている。学生からは「教育実習にも活かせる知識・技能を伸ばすことができている」という評価を得ている。

専門教育科目は、近年、予備知識もないままに入学してくる事例が増えているため、初心者と既習者が混在するクラスにおいて授業の難易度のバランス調整が最も気を配るところである。基本として懇切丁寧な指導を心掛けているが、リアルタイムでピアノを弾きながら曲の例を紹介しつつ、修得すべき要点を強調したり、学生が作詩したものに作曲した歌をコードネーム実習の教材にして半期をかけて歌い続けるなどの工夫により、履修者も楽しく学んでいる様子であった。試験をしても全体の理解度は高めであったが、とりわけ専科ではない履修者が専科よりも優秀な成績であったことに、他教科学生の音楽に寄せる関心の高さをうかがわせた。

実習系の授業では、音楽ソフトを実際に操作することで将来現場で必要とされるであろうICTの技術への関心を高めさせるよう努めた。これからは、さらに授業内容の改善を進め、指揮や演奏の実践において学生個々のアナリーゼの能力を高めることを目標に、数々の作曲技法を紹介しながら楽曲分析を行う機会を増やそうと考えている。

ガイダンスを複数回にわたって実施するなど、受講者が発表に取り組みやすくなるよう事前の説明を丁寧におこなっている。今後は、受講者が主体的に取り組めるような発問や質疑応答に参加しやすい雰囲気作り等も意識的に行うことで、受講者の学びの満足度を高めていきたい。

昨年度のアンケートにおける希望を受けて、専門教育科目(1)で学生が発表する際の資料は、印刷して持参させるのではなく、事前にデータを教員にメールで送付させ、まなびネットに共有した。当該科目は発表資料の枚数が多くなる傾向があるため、データ共有の方法を採ったことは好評であった。事前送付のため完成時刻は印刷する場合よりも早くなるが、送付が遅れるケースもほぼなかった。今後も継続を試みたい。また目標の達成レベルを超え学んでいる・専門的知識を体系的に学べた・汎用的な能力を身につけられたか、などの問いでとてもそう思う・ややそう思うの回答率が高く、発表や質疑応答から学びを得たと感じる学生が多かったと思われる。専門教育科目(2)は、対面の回とオンデマンドの回をおおむね半々程度で実施している。対面とオンデマンドのバランスがよく、取り組みやすかったという声がみられた一方、オンデマンドの回だと十分に理解できていないと思うこともあったという意見もあった。オンデマンドでのより丁寧な説明を心掛けると共に、オンデマンド回への質問を積極的に募集し、次の対面回で補足するなどの対応をしていきたい。また、コメントペーパーは実施しているものの「質疑応答の機会があった」の項目では「あまりなかった」「なかった」の回答も比較的にみられたので、学生が積極的に関わられるような取り組みも考えていきたい。1年生の共通教育科目では、90分授業にまだ慣れていない学生も多いと思われるので、半分程度のところで休憩時間を設け、教員の研究分野のことや、おすすめの文学作品などを話した。(聞いていてもよいし、ぼんやりしていても、トイレ休憩をしても可、私語はなるべく慎む)リフレッシュでき、集中力が高められるという点で好評であったため、今後も継続したい。またこちらも「質疑応答の機会があった」の項目では「あまりなかった」「なかった」の回答も比較的にみられ、またグループでの活動を行う機会がもっとほしいという声もあったので、講義の時間や個人で文章を書く時間だけではなく、教員・生徒間での交流の時間をさらに設けられるようにしたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

専門教育科目(1)、専門教育科目(2)ともに、学び合いや相互評価、発表会等の場を取り入れている。また、ペア活動、グループやチームワークを多くすることで、積極的な取り組みを促し、効果的に力を身に付けられるようにしている。特に実技に関しては、経験者と初心者の差があることで、学生が評価に不安を感じないように見直しをもって取り組める時間の確保や、評価観点の明確化を大切にしている。また、独奏であっても、グループやチームで高めようとする意識が持てる環境づくりに力を入れている。さらに、オンデマンドも活用しながらスモールステップで進められる工夫をし、初心者や苦手な学生も取り組みやすいよう配慮した。

専門教育科目(1)のアンケート結果1.「授業内容の『意義や必要性』について十分に説明され、さらに学びたいと意欲がわくものである」、2.「理解しやすいように資料や機器の利用、活動環境設定、コメント提供などに工夫のある『教え方』が展開された」の項目で、回答した55%の学生全員が肯定的回答をしていることから、取り組みの成果がうかがえる。また、自由記述の「毎週と言っていいほど、グループでの発表があり、私たちのクラスは少しレベルが高く考えるのが大変でしたが、楽しかった」をつなげて考えると、手立ての有効性が感じられる。

専門教育科目(2)については、学生16%の回答だけで、資料不足のため考察は難しい。ただ、自由記述の「今学期で一番とっていいほど学びのある授業でした。現場の経験を存分に生かされた授業内容で説得力があったし、学生でも気づいたら意欲的になるような工夫や対処が随所に見られました」からは、ある程度の成果があったと言える。

今後は、これまで以上にプロセスを重視し、振り返りによって自己調整や自己評価力をより一層高めることや、講話的な場面においても、さらに学生が考える場の設定をしたい。

専門教育科目

回答率が高くはないため、回答内容と受講生全体の傾向が同様かどうかは判断できないものの、全体的に「よくあった」「ある程度あった」が選択されていた。授業の主な内容が指導案の作成とその実践であり、授業の中で学生同士意見を伝え合う場面が多かったためと考えられる。また、問9の自由記述には、初回時に授業課題を全て提示したことで見通しが持てたという声もあり、学生が計画立てて課題に取り組めるよう、今後も初回時の分かりやすい説明を心がけたいと思う。

本授業では模擬保育実施時に指導案を学生に配布し、助言や指導を行った他、個別に指導案の添削を返却することで、指導案の作成方法や保育活動の具体的な進め方について学べるようにした。学生が保育現場のイメージを持てるよう、模擬保育の進め方やフィードバックの方法については、今後も考えていきたい。

共通教育科目

アンケート結果を見ると、問4の質疑応答の機会に関する質問や、問6の専門的知識と他分野・事象との関連に関する質問では「よくあった」「ある程度あった」という回答が多かった。授業内で幼児教育の映像を見たり、実際に体験したりした上で、グループ内での話し合いを取り入れたためではないかと考えられる。

また、授業内では幼児教育の現場で親しまれている遊びを体験することもあり、そのような体験に関する肯定的な意見も自由記述に見られた。受講生が1年生ということもあり、幼児教育の現場を具体的にイメージしたり、仕事の面白さや意義を感じたりすることができるよう、今後も実践を取り入れながら学びを深められるような方法を考えていきたい。

基本的な心理学実験の知識を提示し、段階的に実験の体験ができるように課題の設定をしている。また関心を持って探索するという姿勢がはぐくまれるように、興味関心のあるテーマを取り上げられるようにしている。

初めて体験することで、「目標を越えてより優れている」という体験は難しい部分もあるが、できているところを積極的にフィードバックするなどの工夫はしたい。また文献などを調べるという点に関しては、レポート記述の説明の際に、調べるこの意味や必要性を伝えるように工夫していきたい。